

五城目町の教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価

報 告 書

(令和5年度事業)

令和6年9月

五城目町教育委員会

目 次

	ページ
1 点検と評価について	… 1
2 教育委員の活動状況（令和5年度）	… 3
3 点検と評価の結果	… 5

【学校教育課】

(1) 学校情報機器整備事業

(2) 学校給食事業

(3) 放課後児童健全育成事業（すずむしクラブ）

(4) 放課後児童学習支援事業（わかすぎくらぶ）

(5) コミュニティ・スクール事業

(6) 教育留学事業

【生涯学習課】

(7) 地域図書室「わーくる」

(8) 放課後子ども教室推進事業（わらしべ塾）

(9) 伝統文化子ども教室事業（こども番楽教室）

(10) 五城目みんなの学校2023

1 点検と評価について

(1) 点検と評価の趣旨

五城目町の教育に関する点検と評価審査委員会（以下、「点検と評価審査委員会」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民への説明責任を果たすことを目的として行うものです。教育委員会自らが、所管する事務の管理及び執行の状況の点検と評価を行い、それについて学識経験者や民間事業者、保護者代表に外部評価をしていただき、結果を報告書にまとめて議会へ提出するとともに公表します。

参考 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検と評価の対象及び方法

本報告書の点検と評価は、令和 5 年度の事務事業を対象として実施しています。具体的には、学校教育や社会教育に関することを中心に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条で教育委員会の職務権限とされ、町教育委員会が所管する事務事業のうち、五城目町教育大綱（令和 4 年度から令和 8 年度まで）の重点施策の実施について点検と評価をするものです。

教育委員会では、目標に対する達成状況や成果等を踏まえて自己評価を行います。評価の区分は次のとおりです。

- A：期待通りの成果を得た
- B：概ね期待通りの成果を得た
- C：改善の余地がある
- D：廃止すべきである

そのうえで自己評価や事業の成果、今後の方向性などをまとめた事務事業評価シートを作成しました。これをもとに教育委員会による自己評価が適切であるかどうかについて、審査委員から意見をいただきました。

(3) 報告書作成過程

本報告書は、次のような過程で作成しました。

- 4月28日(金) 教育委員会4月定例会にて、点検と評価審査委員の委嘱について議決
- 5月31日(水) 出納閉鎖
- 6月中 教育委員会各課で事務事業評価シートを作成
- 7月5日(金) 第1回五城目町の教育に関する点検と評価審査委員会を開催
(13:30～ 役場4階大会議室)
- 7月29日(月) 第2回五城目町の教育に関する点検と評価審査委員会を開催
(13:30～ 学習支援「わかすぎくらぶ」、五城目小学校(給食事業関連)を視察。その後、五城目小学校会議室にて会議)
- 8月6日(火) 点検と評価審査委員による評価書提出締切
- 8月23日(金) 教育委員会8月定例会にて、報告書を議決
- 9月 五城目町9月議会に提出 → 公表

(4) 点検と評価審査委員名簿

点検と評価にあたっては、客観性を確保するとともに、住民の意見を教育行政に反映することができるように、学識経験者や民間事業者、保護者代表として次の3人を審査委員に委嘱し、意見をいただきました。

氏名	備考
鷲谷真一	元五城目第一中学校長
佐藤佳伸	秋田銀行五城目支店長
小熊美奈子	五城目小学校PTA役員

※委員の互選により、鷲谷真一氏が審査委員長に就任

2 教育委員の活動状況（令和5年度）

（1）教育委員

（令和6年3月31日現在）

職名	氏名	任期
教育長	畑澤政信	令和4年10月5日～令和7年10月4日
教育委員 教育長職務代理者	八木下真全	令和2年10月1日～令和6年9月30日
教育委員	佐藤卓男	令和2年10月1日～令和6年9月30日
教育委員	高橋志帆	令和4年12月18日～令和8年12月17日
教育委員	小松睦子	令和4年12月18日～令和8年12月17日

（2）教育委員の主な活動

期日	会議名	出席者等
4月10日	男鹿市・潟上市・南秋田郡地教委・校長会合同懇談会 （潟上市役所庁舎）	畑澤教育長 小松委員
4月20日	令和5年度秋田県町村教育長会議総会 （井川町農村環境改善センター）	畑澤教育長
4月28日	令和5年度第1回総合教育会議（五城目町役場）	畑澤教育長 全教育委員
5月8日 ～9日	令和5年度東北町村教育長連絡協議会定期総会・研究大会	畑澤教育長
5月26日	令和5年度秋田県市町村教育委員会連合会 第1回定期総会（秋田市役所）	畑澤教育長
6月27日	町教育委員会学校訪問 （五城目小学校、五城目第一中学校）	畑澤教育長 全教育委員
7月6日 ～7日	令和5年度東北六県市町村教育委員会連合会定期総会 （大館市民文化会館）	畑澤教育長 全教育委員
11月7日	令和5年度第1回秋田地区教育長会議 （秋田県庁パークホテル）	畑澤教育長
11月9日	全県市町村教育委員会教育長会議（秋田県庁第二庁舎）	畑澤教育長
1月17日	秋田地区第1回教育長面談（秋田地方総合庁舎）	畑澤教育長
2月5日	南秋田郡教育長連絡協議会（五城目町役場）	畑澤教育長
2月5日	秋田地区第2回教育長面談（秋田地方総合庁舎）	畑澤教育長
2月14日	秋田地区第3回教育長面談（秋田地方総合庁舎）	畑澤教育長

(3) 教育委員会会議 議案一覧

議案番号	件名	提出年月日
10	五城目町の教育に関する点検と評価審査委員の委嘱について	R5.4.28
11	五城目町立公民館運営審議会委員の委嘱について	R5.4.28
12	令和4年度五城目町の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書の提出について	R5.8.24
13	五城目町北部地区コミュニティ施設の指定管理者の指定について	R5.10.25
14	五城目町育英資金貸付規則の一部を改正する規則ならびに同貸付細則の一部を改正する規則の制定について	R5.11.22
1	五城目町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について	R6.1.24
2	五城目町スポーツ推進委員会委員の任命について	R6.3.28
3	五城目町中央公民館長の任命について	R6.3.28
4	五城目町地区公民館長及び主事、主事補の任命について	R6.3.28
5	五城目町立公民館運営審議会委員の委嘱について	R6.3.28
6	五城目町社会教育委員会委員の委嘱について	R6.3.28
7	秋田周辺広域市町村圏五城目体育館運営委員会委員の委嘱について	R6.3.28
8	五城目町開発センター運営委員会委員の委嘱について	R6.3.28
9	五城目町生涯学習奨励員の委嘱について	R6.3.28
10	五城目町社会教育主事の発令について	R6.3.28
11	五城目町地域学校協働活動推進の委嘱について	R6.3.28
12	五城目町語学指導等を行う外国青年招致事業に係る任用規則の一部を改正する規則制定について	R6.3.28
13	五城目町屋内温水プール管理規則の一部を改正する規則制定について	R6.3.28

※議案番号は暦年による一連番号です

【事務事業評価シート】

五城目町教育委員会 学校教育課

番号	R05-1									
事業名	学校情報機器整備事業 (GIGAスクール(公立学校情報機器整備費補助金))									
① 事業の概要	開始年度	令和2年度	個別計画等	ICT活用計画及び達成状況を踏まえたフォローアップ計画						
	補助・単独	補助	根拠法令等	公立学校情報機器購入事業、家庭学習のための通信機器整備事業						
	実施方法	<input type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> その他(臨時交付金)								
	対象	五城目小学校、五城目第一中学校(児童生徒及び教職員等)								
目指すべき姿	令和元年12月に文部科学省で掲げた「GIGAスクール構想」の実現に向けて、誰一人取り残すことない公正に個別最適化され、創造性を育む学びを実現するため、全ての児童生徒に「1人1台端末」等のICT環境を整備する。									
事業内容	・児童生徒の端末整備支援 ・学校ネットワーク環境の全校整備 ・緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備 ・大型掲示装置(電子黒板)の整備									
② 事業コスト	区分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(当初予算)	特記事項			
	最終予算額(6年度は当初予算額)	千円	2,107	3,164	880	880	令和5・6年度は児童・生徒用機器の新規導入は無し			
	決算額	千円	2,107	2,721	880		令和4年度において任用していたICT支援員は、5年度から			
	決算額のうち一般財源	千円	1,054	2,384	880		ICT活用にとどまらない学校教育活動推進員としての			
	概算人件費	該当するサポート職員数	人		1		任用となつたため、ICT関係予算としての計上は無し			
概算人件費		千円		1,748						
③ 実績	区分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(予定)	特記事項			
	1 児童生徒数	人	400	387	385	366	R5 児童生徒数(小学校251人、中学校133人)			
	2 教室数	室	16	16	16	15	R5 普通教室数(小学校11室、中学校5室)			
	3									
④ 達成目標	区分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(予定)	目標値	5年度達成率	特記事項	
	1 ICT機器使用回数(週1回以上の割合) 小学6年生対象:小学5年生までの授業	%	3.7	55.7	72	80	80	90%	五城目町教育振興基本計画(全国学力・学習状況調査)	
	2 ICT機器使用回数(週1回以上の割合) 中学3年生対象:中学2年生までの授業	%	18.2	75.7	97.7	100	90	109%	五城目町教育振興基本計画(全国学力・学習状況調査)	
	3 ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思っている生徒の割合(小学6年生)	%	74.1	69.2	68.8	80	80	86%	五城目町教育振興基本計画(全国学力・学習状況調査)	
	4 ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思っている生徒の割合(中学3年生)	%	61.4	40.5	62.8	71	71	88%	五城目町教育振興基本計画(全国学力・学習状況調査)	
項目	説明・考察									
成果	・令和5年度中に関連する機器の増設はなかったものの、小学校に4台、中学校に3台が整備されている大型提示装置(電子黒板)など、既存の機器を活かした学習は継続して行っており、授業等で活用する機会は、教員の習熟度の向上に伴い増加しつつある。 ・ICTを活用した「個別最適な学び」の充実と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図っており、教員資格を有する推進員が、不登校等やむを得ず登校できない児童生徒に対してオンライン学習支援を行っている。 ・検証事業として算数/数学と外国語/英語のデジタル教科書を継続して導入し、タブレット活用機会の増進を図った。 ・年度更新やアカウント発行、調整等を令和5年度から業務委託しており、推進員の支援効果の強化及び教職員の負担軽減を図った。									
今後の課題	・タブレットの利活用をはじめとするICTを活用した教育の充実については、タブレットの利活用や指導力に格差が生じないように研修の充実を図ることが重要である。 ・当初は各家庭に貸し出すために整備したWi-Fiルーターの利活用についても検討していく必要がある。 ・中学校の一部では通信速度の確保に課題があり、今後学校全体のシステムの更新と合わせて改善を行いたい。 ・タブレットで使用している教育用ソフト等のライセンス契約の更新時期と併せて、タブレット端末の更新についても国の動向を注視しながら検討を加えていく必要がある。									
方向性										
⑤ 事業の評価	教育委員会による自己評価	B ・町会計年度任用職員として学校教育活動推進員を配置しており、教職員のICTを活用した授業力向上と負担の軽減のほか、小・中学校の現状の把握と、具体的な課題の洗い出しもつながっている。 ・大型提示装置やデジタル教科書等を継続して活用し、授業における多様な運用を図っている。 ・活用は進んでいるものの、有用性を実感している児童・生徒の割合は伸び悩みがみられるため、活用事例の収集や提供なども進め、授業力向上に引き続き務めたい。								
	審査委員の意見	・「児童生徒1人1台端末」、大型掲示装置(電子黒板)等、算数/数学や外国語/英語のデジタル教科書等の整備、更には学校教育活動推進員(ICT支援員)の配置など、十分なICT教育環境の整備が実現されており、大きな成果である。 ・今後は、「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化され、創造性を育む学び」を実現するための取組が重要である。例えば、評価指標(全国学力・学習状況調査のアンケート結果)を見ると、授業におけるICT機器の使用回数は伸びている一方、自分の勉強の役に立つと思っている児童生徒の割合は伸び悩んでいるようであるが、それがなぜなのかを児童生徒一人一人のレベルで問い詰めることが重要である。そのためには、アンケートで否定的な回答をした児童生徒への聞き取り調査が一つの有効な方策である。その結果、授業力向上が急務であれば研修の充実が不可欠であるし、児童生徒自身や家庭的な問題等であれば、教育相談等が必要である…等々と、対策を具体化できるはずである。 ・大きな事故等につながる可能性があるため、情報リテラシー、情報モラルの育成や教員の多忙化防止の取組には十分に留意したい。 ・学校教育活動推進員として再任用者を配置しており、よく機能しているものと史料する。 ・有用性に関しては、親の端末への理解も関係すると思うので、子どもと一緒に取り組める課題やゲームなどを使って家全体で楽しめるような仕組みができれば良いのになと思います。								

【事務事業評価シート】

番 号		R05-2		五城目町教育委員会 学校教育課						
事業名		学校給食事業								
①事業の概要	開始年度			個別計画等						
	補助・単独	単独		根拠法令等		学校給食法、五城目町学校給食費無償化補助金交付要綱 他				
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)								
	対 象	五城目小学校 五城目第一中学校								
	目指すべき姿	安心・安全な給食を提供できるようにするため、各学校の調理環境を整備する。地元食材を大いに活用し、児童生徒の食に対する関心を高める。								
事業内容	町内小中学校の給食管理運営を行う。家計の経済的負担の軽減、食育の推進及び地場産物を活用した安心・安全の学校給食の推進を図るため、町内在住の小中学生保護者に対し学校給食費無償化補助金の交付を行う。									
②事業コスト	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度(当初予算)	特記事項		
	最終予算額(6年度は当初予算額)		千円	20,865	21,799	26,515	32,226	○学校給食費無償化補助金		
	決 算 額		千円	20,551	21,384	26,208		・令和5年度 予算額 42,537,000円		
	決算額のうち一般財源		千円	20,551	21,384	26,208	32,226	決算額 42,233,256円		
	概算人件費		該当するサポート職員数	人	13	13	16	16	・令和6年度 予算額 23,387,000円	
概算人件費		千円	13,315	13,880	15,438	20,687				
③実績	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度(予定)	特記事項		
	1	学校給食提供者数(五城目小学校)	人	265	270	250	233			
	2	学校給食提供者数(五城目第一中学校)	人	132	114	131	133			
	3	給食室稼働日数(五城目小学校)	日	194	195	194	194			
	4	給食室稼働日数(五城目第一中学校)	日	193	194	193	195			
④達成目標	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度(予定)	目標値	5年度達成率	特記事項
	1	給食無償化対象者数(小学生)	人	—	—	242	221	—	—	令和5年度より事業開始
	2	給食無償化対象者数(中学生)	人	—	—	121	125	—	—	〃
	3	地元野菜使用率	%	41.5	37.3	29.8	45	45	66.2	第4期五城目町食育推進計画
⑤事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察								
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 調理設備の修繕について、計画的なものに加えて突発的な不具合に対しても適切に対応し、毎日の給食提供に支障が無いようにすることができた。 消耗品等については計画的な買い替えを行い、衛生面に十分配慮して調理を行うことができた。 令和5年度より、給食費無償化事業が開始となった。町内小中学校の栄養教諭や栄養士と連携をとりながら、実績に基づいた補助金の交付を行うことができた。さらに、町内に住所を有していて、区域外就学等で町外の小中学校に在籍している児童生徒の保護者に対しても直接補助金の交付を行った。 小中学校ともに地元産の米や野菜を毎日の献立に取り入れることができた。 								
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 調理設備については、年度ごとに修繕箇所を決めて予算を要求しているが、例年小中学校ともに予期せぬ不具合があり、状況によって補正対応等が必要になる場合もある。 給食費無償化補助金について、令和6年度から食物アレルギー等により一部弁当を持参する場合についての記述を要綱に加えた。事業は2年目に突入するが、遂行する中で要綱の内容に不備がないか慎重に確認していく必要がある。 例年、町内の関係機関と連携しながら各学校で食育に関する取り組みを行っているが、今後は給食費無償化事業と併せて町内外に広く周知していきたい。 								
	方向性									
	教育委員会による自己評価	B		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒に安心安全な給食を提供できるようにするため、給食室の環境を整備した。 地元産の米や野菜を献立に取り入れ、児童生徒が食に興味を持つきっかけを作ることができた一方、2年続いた大雨の被害や農家の高齢化により地元野菜の使用率は減少傾向にあり、目標の達成が厳しい状況になっている。 給食費無償化事業を開始し、保護者の給食費負担を軽減することができた。 						
審査委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> まずは、町の単独事業として、給食費無償化事業を継続するとともに、地元産の米や野菜を取り入れた安心・安全でおいしい給食の提供を実現していることに深く敬意を表したい。多額のお金のかかることではあるが、今後も継続していきたい事業の一つである。 一方で、だからこそ、どこかで機会を捉え、食育に関する取組とともに小中学生やその保護者の喜びの声を発信したり、町政アンケートに項目を設けたりするなど、小学生、中学生の子どもがいるいないにかかわらず町全体で健やかな子どもを育てていこうとする気運を醸成していく必要があるのではないだろうか。最近ではもっと強く、子育ては地域社会全体の責任と捉えている識者も多い。 今年度は、業者の清掃が入る直前ということで、普段は入れない給食室を特別に見学させていただいた。小学校は新しい設備ではあるが、使いづらい機械があることや複雑な動線などが課題であることが分かった。どうか安心・安全な給食提供のために、一つ一つ確実に解決してほしい。 経費増加事由は、食材、水道光熱費の高騰のほか中学校設備の老朽化によるメンテナンス費用であり問題ない。地元野菜使用率低下基調も、大雨被害や農家自体の高齢化を踏まえればやむなしと思料する。生産者のみならず、地元の食品加工業者や製造業者への働きかけの余地はあるのではないかと。 我が家の子どもたちは二人ともずっと給食が大好きなので、ありがたい、心強い存在です。地産地消も素晴らしいですが、となり町や県内のものなど、また、難しいかもしれませんが、教育留学で来てる子の地元のごはん(沖縄の～、東京の～)があれば楽しそうだと思います。 									

【事務事業評価シート】

番 号		R05-3		五城目町教育委員会 学校教育課						
事業名		放課後児童健全育成事業(すずむしクラブ)								
①事業の概要	開始年度	平成14年度	個別計画等							
	補助・単独	補助	根拠法令等		児童福祉法 五城目町放課後児童施設設置条例 他					
	実施方法	<input type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他()								
	対 象	小学校に就学している児童で、保護者が労働等により昼間家庭にいないもの(小学校1～3年生)※令和6年度から4年生の受入開始								
目指すべき姿	・保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後に小学校敷地内の専用施設にて適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図るものである。									
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童の健康管理、安全確保、情緒の安定 ・遊びの活動への意欲と態度の形成 ・遊びを通じた自主性、社会性、創造性の育成 ・放課後児童の遊びの活動状況の把握と家庭への連絡 ・家庭や地域での遊びの環境づくりへの支援 ・その他放課後児童の健全育成上必要な活動 									
②事業コスト	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度(当初予算)	特記事項		
	最終予算額(6年度は当初予算額)		千円	10,118	9,848	12,778	12,936	令和5年度歳入内訳		
	決 算 額		千円	9,843	9,723	11,867		・放課後児童健全育成事業補助金		
	決算額のうち一般財源		千円	1,639	1,480	1,263	1,470	3,272,000円		
	概算人件費		該当するサポート職員数	人	8	8	7	7	・子ども子育て交付金 3,638,000円	
		概算人件費	千円	6,200	6,124	7,983	8,318	・学童保育クラブ費 1,263,250円		
③実績	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度(予定)	特記事項		
	1	利用登録人数	人	93	91	72	87	・令和6年度から4年生の受入開始		
	2							・1日当たりの平均利用児童数…28人(平日平均32人、土曜日平均2人)		
	3							・年間開所日数 276日 ・平日…238日 ・土曜日38日		
④達成目標	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度(予定)	目標値	5年度達成率	特記事項
	1	開設日数	日	261	280	276	290	—	—	
	2	年間延べ利用者数	人	9,801	8,031	7,661	8,500	—	—	
	3									
⑤事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察								
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの5類以降に伴い、すべての行動制限が解除となった。利用児童はすずむしクラブで決められたルールを守り、保護者がお迎えに来るまで各々充実した時間を過ごしている。 ・遊びの幅が広まった一方で、大雨災害や猛暑、クマ出没等により屋外での活動が困難な時期が続いたが、緑日やハロウィーン、クリスマスなどの行事を企画し、施設内でも楽しめるよう工夫することができた。 ・防災や防犯に係る訓練や講習を実施し、職員と児童がそれぞれ自分の命を守るためにどう行動すべきか考え話し合う機会を設けることができた。 								
	今後の課題 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度末、長年勤務した支援員2名が退職したため、3月中は職員の確保に難儀した。令和6年度は支援員4名(うち2名は補助員から昇任)と補助員3名(うち2名は新規採用)の体制で運営しているが、補助員は未だ欠員状態が続いている。 ・配慮が必要な児童の利用に合わせ、補助員の勤務を依頼する機会が増えている。さらに、遊びの幅が広がったことで児童の動きも活発になっており、事故の心配もある。職員の負担を軽減しつつ児童の見守り体制を徹底するためにはどうしたらよいか、今後の重要な課題の一つとなることが予想される。 ・児童と職員が防災や防犯への意識を高める機会を増やすため、町の消防本部や警察署と連携を強化していきたいと考えている。 ・令和6年度から4年生も受入可能とした。今後は段階的に対象学年を引き上げていき、最終的には希望する全学年の児童が利用できる体制を整えていく予定である。 								
	教育委員会による自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・例年同様、特に大きなトラブル等もなく、児童の健康管理、安全確保、遊びの活動等適切な対応ができた。 ・支援員は各家庭と綿密に連絡を取り合っており、保護者が安心して子どもたちを預けることができるよう配慮している。 ・大雨災害や猛暑、クマ出没のため屋外の活動は見送ったが、施設内で児童が安全に楽しく過ごせるように工夫することができた。 ・支援員主体となって多様なイベントを企画・実施する動きがあり、利用児童は学年問わず親睦を深めることができた。 							
審査委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が安心して子どもを預けることができ、子ども自身もそれぞれ楽しく充実した時間を過ごすことができるように、支援員の方たちが日々、各家庭との連絡を密にするとともに、児童の健康管理や安全確保に適切に取り組まれていることを大きく評価したい。 ・今年度から4年生の受入が始まりました、配慮が必要な児童の利用に合わせて補助員の勤務を依頼する機会が増えたりしているようである。一日も早い補助員等の欠員状況の解消に努めたい。 ・併せて、今後も職員の確保に支障が続くようであれば、柔軟に他課所等の職員を一時的に応援派遣することができる体制を構築するなど、全体をコーディネートしていく必要があるのではないだろうか。 ・支援員、補助員の確保が肝要と思量する。「すずむしクラブ」の賞与支給による経費増加は待遇改善に資するものであり問題はないと思量する。 ・ガラス越しに楽しそうだな、とよく見えますが、館内の様子はよく分からないので、イベントや企画など、どんなことをしているのか、写真などと一緒に見られる機会があれば嬉しいです(町の広報など)。 									

【事務事業評価シート】

番 号	R05-4			五城目町教育委員会 学校教育課						
事業名	放課後児童学習支援事業(わかすぐらぶ)									
①事業の概要	開始年度	平成23年度	個別計画等							
	補助・単独	単独	根拠法令等	五城目町放課後児童学習支援事業規則						
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)								
	対 象	五城目町内の小学校4～6年生								
目指すべき姿	五城目町内の小学校4～6年生までの児童を対象とし、放課後に町が指定する施設において、児童の自主学習の支援を行うとともに、児童の放課後の安全な居場所確保を図るものである。									
事業内容	・町内の小学校4～6年生児童で自主学習の意欲のある児童が登録し、町が指定する施設において放課後保護者が迎えに来るまでの間、自主学習を主体に過ごすことを目的に、五城目町教育委員会が認める大学・短大卒業程度の学力を有する者が、児童の学習支援を行うものである。									
②事業コスト	区 分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(当初予算)	特記事項			
	最終予算額(6年度は当初予算額)	千円	4,050	4,001	4,092	4,345	H23年度 緊急雇用創出事業を活用し実施したが、H24年度からは町単独事業で継続している。			
	決 算 額	千円	3,996	3,916	3,925					
	決算額のうち一般財源	千円	3,996	3,135	3,925					
	概算人件費	該当するサポート職員数	人	2	2	2		2		
概算人件費	千円	3,491	3,486	3,548	3,926					
③実績	区 分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(予定)	特記事項			
	1	登録児童数	人	60	63	44	36	左記以外の令和5年度実績		
	2							・1日当たりの平均利用児童数…12.2人		
	3							・平日…195日 学校休業日数(長期休業含む)…38日 計233日(閉室…7日)		
④達成目標	区 分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(予定)	目標値	5年度達成率	特記事項	
	1	開室日数	日	241	237	233	238	—	—	
	2	年間延べ利用者数	人	3,332	3,207	2,870	2,900	—	—	
	3									
⑤事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察								
	成果	・登録児童数は減少しているものの、多くの児童が利用しており、需要の高さを感じられた。 ・小学校との連絡会議は、令和5年度は災害の影響で1回しか実施できなかったが、小学校での様子や支援員が気になっていることなどを共有し、それぞれの児童にあった対応をとることができた。								
	今後の課題 方向性	・引き続き小学校との情報共有を行い、連携を取りながら、それぞれの児童への学習支援を行っていく必要がある。 ・支援員の不足により、単独での運営が厳しくなることが見込まれる。委託や学童保育との合併も視野に入れていかなければならない。								
	教育委員会 による 自己評価	C A:期待通りの成果を得た B:概ね期待通りの成果を得た C:改善の余地がある D:廃止すべきである	・各機関と連携し、子ども体験塾やわらしべ塾などに参加することにより、学習以外の体験をすることができ、絆を深めることができた。 ・支援員と保護者との信頼関係が築かれている。 ・新たな支援員が見つからず、補助員含め身体的負担が大きくなってきているように感じる。 上記で示したとおり、運営体制の見直しが必要となってくる。							
審査委員の 意見	・わかすぐらぶの学習支援員の方から、本事業について課題や問題点、そしてそれらへの対応等についてお話を伺うことができた。特別支援学級の児童や特別な支援を要する児童等へのきめ細かな対応、小学校との連携の重要性、長期休業中の支援の工夫、対象学年の拡充への対応等、様々なご指摘があった。活動場所の確保については、既存の施設を活用することで対応できそうであるが、学習支援の改善については、支援員の不足がネックのようであった。今後も支援員の確保が大きな課題となってくるのではないかと考えられる。「募集したが見つからない」ことが現状であれば、早期に本町の退職教員等から五城目町学習支援人材バンク(仮称)に登録してもらい、すぐ調整に動けるシステム作りなどの対応が必要である。 ・本事業は、放課後に保護者が迎えに来るまでの間、自主学習等を支援するものであり、登録児童数の経緯を見ると一定のニーズが認められる。町の単独事業であるが、今後も継続を望みたい。 ・多様化する利用者のことを考慮すればするほど、支援員、補助員の確保が肝要と思料する。また、視察をさせていただいて、やはり教室が狭いと感じた。町民センターの他のスペースの活用で解消が難しいとすれば、小学校の空き教室や空きスペース(あるのかわかりませんが)の活用のほか、他の公共施設(庁舎、朝市ふれあい館等)の利用を検討できないか。 ・部屋が狭そうだなと感じました。遊ぶ部屋と勉強する部屋を分けられると良いのかな、と思いました。									

【事務事業評価シート】

番 号		R05-5		五城目町教育委員会 学校教育課						
事業名		コミュニティ・スクール事業								
① 事業の概要	開始年度	令和2年度	個別計画等	第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略						
	補助・単独	単独	根拠法令等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律 五城目町学校運営協議会の設置に関する規則						
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他()								
	対 象	五城目小学校 五城目第一中学校								
目指すべき姿	・学校・家庭・地域が連携し、主体となって地域の「ひと・もの・こと」を活用し、学習や地域行事への参加、学校環境の整備、食育活動などを行うことをとおして、地域ぐるみで子供を育むコミュニティづくりを推進するものである。									
事業内容	・学校と地域が目標やビジョンを共有し、一体となって特色ある学校づくりを進める。 ・学校運営協議会の設置(学校運営協議会を設置した学校をコミュニティ・スクールという) ・学校運営協議会において学校運営の課題テーマに対して熟議し、協働活動へつなげる。 ・学校運営協議会は、小中学校の運営状況について評価を行う。									
② 事業コスト	区 分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(当初予算)	特記事項			
	最終予算額(6年度は当初予算額)	千円	135	135	126	144				
	決 算 額	千円	84	123	117					
	決算額のうち一般財源	千円	84	123	117					
	概算人件費	委員数(報酬対象)	人	15	16	16				
	概算人件費	千円	135	135	135					
③ 実績	事業の実績	区 分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(予定)	特記事項		
	1	実施学校数	校	2	2	2	2	五城目小学校/五城目第一中学校		
	2	学校運営協議会 委員数(報酬対象)	人	16	16	16	16	※総委員数 (R3:20人、R4:20人、R5:20人)		
	3	学校運営協議会 開催回数	回	3	3	3	3			
④ 達成目標	事業の成果	区 分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(予定)	目標値	5年度達成率	特記事項
	1	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる児童の割合(小6:当てはまる)	%	40.7	19.2	62.5	65	50	125%	五城目町教育振興基本計画(全国学力・学習状況調査)
	2	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる生徒の割合(中3:当てはまる)	%	22.7	18.9	32.6	35	25	130%	五城目町教育振興基本計画(全国学力・学習状況調査)
⑤ 事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察								
	成果	令和5年度学校運営協議会・・・3回開催 総出席委員数49名(学校関係者や地域住民、民間事業者など20人を委員として委嘱) ・第1回目・・・小・中学校長からの学校経営や今年度の活動に関する説明の後、小学校部会では「学校菜園、ウォークラリー」について、中学校部会では「職場学習、地域人材を生かした学習」について協議を行った。それぞれの意見は事業の実施に生かされ、ウォークラリーは7月に委員の協力も得て実施され、町のよさを再発見する機会となった。 ・第2回目・・・11月に実施するあいさつ運動についての協議を行い、その後、小学校部会では来年度に控えた150周年記念事業の内容についてを、中学校部会では第1回に引き続き3年生の総合的な学習に向けての内容に関する協議と協力の依頼が行われた。あいさつ運動は11月に委員の協力を得て実施され、児童・生徒とあいさつを交わした。第1回から引き続き協議されてきた中学校の総合学習については、「子ども議会」の代表を決める全体発表会に委員が参加し、意見や感想を述べた。 ・第3回目・・・学校評価、学校経営基本方針について意見を求め、今年度の活動の振り返りを行い、今後も地域とのつながりを生かした事業を行っていくための方策について協議した。 ・コミュニティ・スクールの役割や活動について町広報(R6.4月号)で周知した。								
	今後の課題	・全国学力・学習状況調査においては、児童・生徒側の地域への貢献意識に高まりがみられるものの、地域住民の協働に関しては委員や既存のボランティアが中心であり、地域全体への活動の広がりという面では課題が残る。地域を巻き込んだ取り組みの拡充が必要である。								
	方向性									
	教育委員会による自己評価	B		・令和5年度は、学校運営協議会での意見をもとに、ウォークラリーやあいさつ運動など、具体的な地域協働活動につなげることができた。 ・広報などの活用による周知活動を継続して行い、認知度の向上を図った。 ・委員による学校評価をうけ、学校経営計画をその改善計画を踏まえたものとすることができた。 ・学校協働活動をはじめ、他の事業とタイアップするなど、学校運営協議会内の取り組みにとどまらず、地域との接点を拡大していく取り組みが求められる。						
審査委員の意見	・小学校部会では学校菜園やウォークラリー、中学校部会では総合的な学習(子ども議会)への参画、更には小中のあいさつ運動など、具体的な活動が展開されており、評価したい。また、委員による学校評価を受け、学校経営の改善が図られていることは、地域の願いが学校教育に反映されているということに他ならない。このように地域と学校の双方がウィンウィンの関係であることが、本町のコミュニティ・スクールの特長であり、よさである。今後も大切にしていきたい。 ・広報などの活用による周知活動も継続されており、少しずつ地域との接点も拡大してきていると捉えている。 ・昨年、本町は大きな水害に見舞われた。地域と学校が協働する防災活動の実施など、コミュニティ・スクールの特長やよさを生かした取組ができないだろうか。 ・活動自体は有意義な取り組みであると思料する。広報等で周知しているが、今後も広報活動の継続が求められる。 ・事業は素晴らしいと思います。“楽しそう”と思ってもらえるキッカケづくりがあると町全体に取組みが広がっていくと思います。学校の行事(運動会や参観日)でこんなことをしています、と出展してみようなど。									

【事務事業評価シート】

番 号		R05-6		五城目町教育委員会 学校教育課						
事業名		教育留学事業								
① 事業の概要	開始年度	令和2年度	個別計画等							
	補助・単独	補助	根拠法令等							
	実施方法	<input type="checkbox"/> 町単 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)								
	対 象	五城目小学校、五城目第一中学校								
	目指すべき姿	<p>・高い学力や体力を育んできた「秋田型探究授業」や自然、文化などを生かした体験活動等とおして、秋田県の教育環境のよさを県外の児童生徒や保護者に体験してもらい、関係・交流人口の拡大や移住定住の促進につなげる。</p>								
	事業内容	<p>・各小中学校の授業や、豊かな自然・文化を生かした休日の体験活動等を通じて、秋田県の教育環境のよさを県外の児童生徒や保護者に体験してもらう。</p>								
② 事業コスト	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度 (当初予算)	特記事項		
	最終予算額(6年度は当初予算額)		千円		314	607	644	R2~3		
	決 算 額		千円		268	554		新型コロナウイルス感染症の影響により受入中止		
	決算額のうち一般財源		千円			57				
	概算人件費		人		5	2	5			
	概算人件費		千円		28	33	160			
③ 実績	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度 予定	特記事項		
	1	受入児童生徒数	人		6	20	20			
	2	実施学校数	校		2	2	2			
	3									
④ 達成目標	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度 予定	目標値	5年度達成率	特記事項
	1	移住者	世帯		1	0	1	—	—	
	2									
	3									
⑤ 事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察								
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は移住者こそいなかったものの、教育留学をきっかけに五城目町への移住を考えている方が1世帯いた。 ・リピーターとして教育留学に再度参加する方もいて、令和6年6月1日時点で2世帯が2回教育留学に参加している。 ・教育留学を体験した児童の体験談をホームページに掲載することで、ホームページの充実につなげられた。 ・教育留学を通じて、五城目町の児童生徒が他地域との文化の違い等を感じるきっかけとなった。 								
	今後の課題 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に教育留学を体験した保護者から移住に関する相談があり、令和6年度中の移住を視野に入れていたが、希望に沿う五城目町での居住地が見つからず、保留状態となっている。移住希望者がすぐに住めるような住宅の確保が町全体の課題でもある。 ・留学期間中に滞在する宿泊施設について、町内宿泊施設は老朽化が進んでいる施設も多い。また、学校から近い宿泊施設は限られており、同時期に教育留学生を受け入れる場合、宿泊施設の予約ができないことが理由で期間を変更した方もいる。そのため、宿泊施設の確保については町全体としての課題だといえる。 ・ホームステイ型を実施する予定だったが、令和4年度から感染症対策等の理由から実施を見送っている。ホームステイを実施する場合、受入宅を確保する必要がある。 								
	教育委員会 による 自己評価	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> <p>A: 期待通りの成果を得た B: 概ね期待通りの成果を得た C: 改善の余地がある D: 廃止すべきである</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に教育留学やデュアルスクールのような居住地以外での教育プログラムが広がってきており、教育留学に参加する児童生徒の中で、他地域の教育留学への参加経験がある方もいた。在籍校に関しても早い段階で理解が得られ、手続きもスムーズに行えている。 ・電話での問い合わせに加えて、フォームでの問い合わせも追加することで、24時間申込が可能となり、さらなる留学希望者への利便性の向上にもつなげられた。 ・今後も留学希望者の参考となるようなホームページ運営に努めていきたい。 							
審査委員の 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実績として、20名の児童生徒の受入があったことは大きく評価したい。この体験がきっかけとなり、本町への移住に結び付けてくれることを願う。移住までいかないまでも、本町での留学経験が様々な交流等に発展する可能性は否定できない。長期的な視点からも継続すべき事業と捉えている。 ・ホームページに教育留学を体験した児童の体験談を掲載できたことなどを含め、今後もSNSなど様々な情報発信ツールの活用を検討、継続してほしい。 ・実際に移住を検討する段階になって、居住地の確保が課題となっているようである。空き家対策とも合わせて対策を検討してほしい。宿泊施設については、町の中でも新たな動きが始まっているようである。今後に期待したい。 ・非常に良い取り組みである。移住につながらないとしても、「五城目町」を知ってもらうこと、体感してもらうことは、必ず将来につながると思料する。リピーターがいること自体が関係人口・交流人口の創出に寄与している。活用する人がリピーターのみになれば頭打ちなのかもしれないが、現状では是非とも継続すべき事業と思料する。 ・学校の受け入れ態勢について全く分かっていなかったのですが、思っていたよりずっと態勢が整えられているのだなと感心しました。町内の受け入れ態勢が整えばもっと広がりをもてる事業になるのではと思います。 									

【事務事業評価シート】

五城目町教育委員会 生涯学習課

番 号	R05-7									
事業名	地域図書室「わーくる」									
① 事業の概要	開始年度	令和3年度	個別計画等							
	補助・単独	単独	根拠法令等							
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)								
	対 象	五城目町、潟上市、八郎潟町、井川町、大潟村、三種町、上小阿仁村の住民とそこに勤務又は通学している者								
	目指すべき姿	・人と地域に寄り添う読書推進のもと、読書の場としてだけでなく、地域住民が交流し、年代を超えてつながることのできる図書室を目指す。								
事業内容	・図書の貸出や図書に関連した事業の実施。									
② 事業コスト	区 分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(当初予算)	特記事項			
	最終予算額(6年度は当初予算額)	千円	4,292	4,944	6,112	6,762				
	決 算 額	千円	3,776	4,722	5,822					
	決算額のうち一般財源	千円	3,776	4,722	5,822					
	概算人件費	該当するサポート職員数	人	1	2	2	2			
	概算人件費	千円	1,604	3,016	4,520	5,194				
③ 実績	事業の実績	区 分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(予定)	特記事項		
	1	利用者数	人	7,889	6,085	8,162	8,000			
	2	貸出冊数	冊	8,530	6,542	6,956	7,000			
	3									
④ 達成目標	事業の成果	区 分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(予定)	目標値	5年度達成率	特記事項
	1	利用者数	人	7,889	6,085	8,162	8,000	8,000	102%	五城目町教育振興基本計画
	2	貸出冊数(一人当たり)	冊	0.99	0.79	0.84	1	1	84%	事務事業の検証
	3									
⑤ 事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察								
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・開室以来の利用者数2万人を1月11日に達成する。 ・コロナウイルス感染症が5類へ移行したことで図書室の視察訪問があったり、みんなの学校等で開室時間外の利用開放を実施したところ、利用者数の増加につなげることができた。 								
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・他の事業をきっかけとして図書室を利用する方も多かったので、きっかけづくりを重視し、多様性のある図書室づくりに努めていく。また、誰もが気軽に利用できる環境づくり雰囲気づくりは、今後も心掛けていきたい。 ・第3期五城目町子ども読書活動推進計画に基づき、小中学校やおはなし会などの地域ボランティアとの連携を深め、子ども達の読書活動への興味関心が高まるような支援を心掛けていきたい。 								
	方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況に応じ開室時間や職員体制を考慮して利用促進に努めてきた。今後もより利用しやすい体制づくりに努めていきたい。また、蔵書数においては徐々に充実してきているので今後も町民の要望を反映させた選書に配慮していきたい。 								
	教育委員会による自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> A: 期待通りの成果を得た B: 概ね期待通りの成果を得た C: 改善の余地がある D: 廃止すべきである 							
審査委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく開放的で清潔感のある施設であり、収められている書籍もほとんど新品同様と感じられ、理想的な環境である。 ・昨年度は、利用者数、貸出冊数が持ち直しており、担当者のご努力を評価したい。上記にも記載されているが、ポイントの一つに「他の事業をきっかけとして図書室を利用する方が多い」ことが上げられると思う。小学校や体育館、プール等がすぐ隣にある立地のよさを生かし、「みんなの学校」や各種スポーツ大会等で訪れた親子連れの方々が、わーくるものぞいてみようかなと思ってもらえる工夫に力を入れるのもよいのではないだろうか。例えば、玄関先に「開館中」、「新書入りました」、「読み聞かせ開催中」、「読書感想文の書き方講座開催中」など、幟(のぼり)やポスターがあるだけでも効果があるように思う。今後も町民や近隣の方々を呼び寄せる仕掛け作りを工夫、継続してほしい。 ・非常に良い空間。新書紹介等も含めて蔵書数も増加してきており、今後も蔵書の充実とともに、多様性のある図書館としての活用の継続をお願いしたい。 ・本を借りたり、仕事をしたりとよく利用しています。個人的には漫画も置いてくれると嬉しいし、今までと違う利用客の方がいらっしやるかと思っています。 									

【事務事業評価シート】

五城目町教育委員会 生涯学習課

番 号		R05-8									
事業名		放課後子ども教室推進事業(わらしべ塾)									
① 事業の概要	開始年度	平成19年度		個別計画等							
	補助・単独	補助		根拠法令等		社会教育法					
	実施方法	<input type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)									
	対 象	町内の児童生徒									
	目指すべき姿	・小学校および社会教育施設等を活用し、放課後や週末における文化活動、スポーツ活動、体験活動など様々な活動を通じ、地域交流を深めるとともに、安全、安心な子どもの居場所づくりを目指す。									
	事業内容	・事業の立案、連絡、調整等事業運営に係るコーディネーター(1名)と講座の講師を担う活動支援員(約30名)等、地域の方々の協力を得ながら、6月～2月までの9ヶ月間、月10回程度(年間約80回)程度の講座を実施している。また、運営委員会(事業運営について協議、5月、10月、2月)の開催、企画委員会(講座の具体的内容について協議、随時開催)を開催して事業を推進している。									
② 事業コスト	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度 (当初予算)	特記事項			
	最終予算額(6年度は当初予算額)		千円	1,011	1,059	984	1,180	○令和5年度歳入556千円(教育費県補助金)			
	決 算 額		千円	919	963	903					
	決算額のうち一般財源		千円	397	324	320					
	概算人件費		該当するサポート職員数	人	35	33	31				
	概算人件費		千円	789	823	752	994				
③ 実績	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度 予定	特記事項			
	1	実施講座数	回	74	72	57	80	大雨により14、インフルエンザ感染防止のため5講座中止			
	2	参加児童生徒数	数	813	804	418	800				
	3	保護者数	数	124	89	128	120				
④ 達成目標	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度 予定	目標値	5年度達成率	特記事項	
	1	実施講座数	回	74	72	57	80	80	71%	事務事業の検証	
	2	参加児童生徒数	数	813	804	418	800	800	52%		
	3										
⑤ 事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察									
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が固定化してきてはいるものの、今年度は1年生の参加者が比較的多かった。低学年においては思い通りにいかずに葛藤する姿もみられたが、経験を重ねていく中で講師等関係者に親しみを持ってようになることで、保護者同様参加する楽しさを感じてきているように思われる。 今年度、開催時期を考慮するなどして1月にわらしべフェスを再開したが、思った以上に参加者の増加につなげることができなかった。 									
	今後の課題	・児童生徒数が減少傾向にある中で、体験活動のマンネリ化が懸念される場所でもある。参加者増加の見込みは厳しい状況にあるが児童生徒の要望を参考にしながら魅力ある内容を提供できるよう、関係者と連携を図りながらコーディネーターと共に運営を推進していく。									
	方向性										
	教育委員会による自己評価	B		・目標の講座数は計画するものの活動内容の見直しが必要であるように思う。また、協力いただいている地域の方々の人材確保のための情報収集に努め、活動の幅を広げていく。							
審査委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、地域の子どもたちと地域の先生で創られるすばらしい取組である。今後も継続したい事業である。 ・昨年度は、大雨により14講座、インフルエンザ感染防止のため5講座が中止となり、参加児童生徒数も半減してしまったようである。今年度は、是非持ち直してほしいところである。わらしべ塾に参加したほとんどの子どもたちは、「参加してよかった」、「楽しかった」と感じているという。このことから、わらしべ塾の取組を広く地域へ発信するなど、参加者を増やすための取組が求められている。 ・わらしべフェスについても、開催時期だけでなく、他の事業(例えばPTA)とのコラボ開催を試みるなどの工夫が必要となっているのではないだろうか。 ・コーディネーターは、講師の確保にも難儀されているようである。人材バンクの作成も対策の一つである。 ・「わらしべ塾」は活動支援員の固定化が課題、「みんなの学校」は小さなソーシャルイノベーションの発生が望ましい形としており、両事業のコラボ・連携である程度解決できるのではないかと。事業を運営する側や講師側が疲弊しては良いものは生まれないと考えており、講座数の見直しも一考の余地があるのではないかと。 ・いつも様々な種類の講座があって、すごいなお便りを見えています。児童生徒の他にも親世代で子どもと一緒にやってみたいことなど聞いてみるのも良いかなと思います。 										

【事務事業評価シート】

番 号		R05-9		五城目町教育委員会 生涯学習課						
事業名		伝統文化子ども教室事業(こども番楽教室)								
①事業の概要	開始年度	平成27年度	個別計画等							
	補助・単独	単独	根拠法令等							
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)								
	対 象	町内3年生以上の児童生徒								
	目指すべき姿	・教育委員会と五城目小学校が山内番楽保存会の協力のもと、伝統芸能と地域との交流を促進し、また、伝統芸能の保存と継承を図る。								
事業内容	・五城目小学校の総合的な学習時間の中で、小学校3年生を対象に実施する。 ・こども番楽教室及び五城目番楽競演会の開催。									
②事業コスト	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度 (当初予算)	特記事項		
	最終予算額(6年度は当初予算額)		千円	266	378	372	373			
	決 算 額		千円	116	181	336				
	決算額のうち一般財源		千円	116	181	336				
	概算人件費		該当するサポート職員数	人						
		概算人件費		千円						
③実績	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度 予定	特記事項		
	1	こども番楽教室参加者	人	13	7	9	10			
	2	小学校3年生の学習回数	回	9	9	14	9			
	3									
④達成目標	区 分		単位	3年度	4年度	5年度	6年度 予定	目標値	5年度達成率	特記事項
	1	こども番楽教室参加者	人	13	7	9	10	7	128%	
	2									
	3									
⑤事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察								
	成果	・今年度も小学生に対して伝統芸能を体験する学習時間を確保することができた。また、こども番楽教室では、参加者が減少している中、新規参加者の確保ができ、高校生の協力も得ることができた。継続的に取り組めるよう支援していきたい。 ・コロナ禍以前のように番楽競演会を開催することができなかったので発表会として実施した。、次年度では、他市町村の民俗芸能団体を招待し、競演会を行ってきたい。								
	今後の課題	・唯一既存の山内番楽においても依然として指導者の高齢化、演者の減少が見られる。小学校等と連携図りつつ、山内番楽保存会内でも後継者育成、民俗芸能の保存について、関係者と協議していく。								
	方向性									
	教育委員会による自己評価	C		・継続していくには厳しい状況におかれているが、引き続き関係者との協議、連携を重ねながら、民俗芸能の保存継承に取り組んでいく必要がある。						
審査委員の意見	A:期待通りの成果を得た B:概ね期待通りの成果を得た C:改善の余地がある D:廃止すべきである									
審査委員の意見	・昨年度も、小学生が伝統芸能を体験する学習時間を確保できたこと、子ども番楽教室に新規参加者があったこと、高校生の協力があったこと、番楽発表会が実施されたこと、今年度は競演会を計画していることなどは、大きな成果である。関係者のご尽力に感謝したい。 ・伝統芸能と地域との交流を促進し、伝統芸能の保存と継承を図る本事業は、守っていかなければならないものである。関係者は本当に難儀されていると思うが、継承のために英知を結集してほしい。 ・伝統芸能は、一度途絶えてしまうと復活はとても難しくなると聞く。もしもの事を考えて、すべての舞や演奏の動画保存等をしてほしい。 ・町の広報での紹介記事は、カラー版ですばらしい内容だった。興味をもった子どももいたのではないかと。掘り起こしにも力を入れたい。 ・歴史ある伝統芸能。指導者の高齢化が喫緊の課題になっている。一方で、今までの本事業の取り組みが奏功してきている面もある。取り組みの継続と卒業生(若者)へのアプローチ継続により伝統文化の承継につながれば良いと思料する。 ・毎年楽しみな行事のひとつです。子どもたちが舞えるようになっていく姿も含め、ドキュメントを残してほしいと思います。									

【事務事業評価シート】

五城目町教育委員会 生涯学習課

番 号		R05-10								
事業名		みんなの学校2023								
① 事業の概要	開始年度	令和4年度	個別計画等							
	補助・単独	単独	根拠法令等	社会教育法 他						
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)								
	対 象	全町民(町民以外も参加可)								
	目指すべき姿	<p>・新しい時代を切り拓く生涯学習の実現や地域課題から導き出される、住民の学び意欲に応えるための事業。</p> <p>・小学校改築事業の際の住民の要望「地域に開かれた学校」の在り方を実現する一つの形。</p>								
事業内容	<p>・小学校を中心とした雀籠エリアで社会教育講座を展開する事業。端的に言えば、学校開放を利用した社会講座群を構築し、ひとつづり、つながりつくり、地域づくりといった社会教育の目標を包括的に支援する事業である。様々な開催時間を設定することで、多様な参加機会を確保している。また、学校授業を社会教育講座として展開、逆に社会教育講座を学校授業に組み込むことで学校と地域の連携で教育価値を高める講座展開を行っている。</p>									
② 事業コスト	区 分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(当初予算)	特記事項			
	最終予算額(6年度は当初予算額)	千円		1,925	3,000	2,959	※ふるさと納税対応			
	決 算 額	千円		1,914	2,959	2,950				
	決算額のうち一般財源	千円		1,914	2,959	2,950				
	概算人件費	該当するサポート職員数	人							
③ 実績	区 分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(当初予算)	特記事項			
事業の実績	1	講座開催数	回	24	34	30				
	2	学習テーマ	個	72	102	90				
	3	参加人数	人	800	1800	2000				
④ 達成目標	区 分	単位	3年度	4年度	5年度	6年度(当初予算)	目標値	5年度達成率	特記事項	
	1	講座開催数	回	24	34	30	30	113%		
	2	学習テーマ	個	72	102	90	90	113%		
	3									
⑤ 事業の評価	項目	説明・考察								
	成果	<p>さまざまな着目点を持つ事業で、見る者によって評価が異なる事業ではある。純粋な社会教育事業としてだけでなく、学校と地域の連携、町民の居場所づくりなど、必ずしも想定していなかった分野でも外部から評価を受けている。社会教育上の成果という観点からは、直接的には学ぶ機会の創出や参加者の交流などが、各講座の数だけ、参加者の数だけ見られたと言える。基本的には町民や町に関わりのある人が講師を務めていて、教育に関わる人材の育成、確保という成果も講座の数だけあったと言える。町にある学びを教育環境の中で可視化する効果もあり、住民にとっては日常の中にある教育要素を知る機会になっていて、日常の学びから得られる満足感、主観的な幸福度を上げる取組になっていると考えている。また、教育環境全体から考えると、従来の公教育に属していない部分に光を当てる効果もあり、新しく学びとして切り取られた要素がそれだけで、認知され、かつ活性化されているといった成果が見られる。</p>								
	今後の課題	<p>教育の目標は、最終的には社会の課題を解決すること、社会を作る人材を育成することと謳われている。よって、より実際の地域課題を様々な形で取上げながら、講座の数だけ小さなソーシャルイノベーションが発生することが望ましい形と考えている。しかし、一方で、講座を多数展開することで、住民は小さな変化に疲弊感を抱く可能性も否定できない。純粋に楽しめる講座や、ただ体験する講座をバランスよく配置しながら、様子を見守ることも大切と考えている。よって令和6年度の実施をもって、本事業はこれまでの形は廃止することとし、関係機関や住民の要望など見極めながら、次の実施形態、教育の形を検討すべき時に来ている。</p>								
	方向性	<p>よって令和6年度の実施をもって、本事業はこれまでの形は廃止することとし、関係機関や住民の要望など見極めながら、次の実施形態、教育の形を検討すべき時に来ている。</p>								
	教育委員会による自己評価	B	<p>目標の達成という点からは、Aと言える。一方で、前述のとおり、これまでの形にとられず、新しい形を模索する必要がある。住民のニーズに応えることは大切だが、それ以前に、どのように住民がニーズを持つのか、住民のニーズはどのように変化するかといった点を検討し、より社会の根源に対する教育のアプローチを考えなくては、社会や地域のダイナミックな変化に対応できなくなることが予想される。よって、見た目は変わらないかもしれないが、事業デザインを再検討したい。よって、B評価としたい。</p>							
審査委員の意見	<p>・「みんなの学校」の具現化として、すばらしい事業と捉えている。昨年度は、34の講座が開設され1800名あまりの参加人数があるなど、大きな実績を残した。また、地域に開かれた学校の在り方、学校を核としたまちづくりとして、教育関係者やマスコミ等の外部から好評価をいただいたことは大きな成果である。今年度も2000名の参加者を目指し、30以上の講座の開設が計画されている。すばらしいラインナップであり、大きな期待を寄せている。</p> <p>・さらに、次年度は住民のニーズを把握、検討し、事業デザインを再検討するという。今までの財産も生かし、グレードアップした展開を楽しみにしている。</p> <p>・「わらしべ塾」は活動支援員の固定化が課題、「みんなの学校」は小さなソーシャルイノベーションの発生が望ましい形としており、両事業のコラボ・連携である程度解決できるのではないかと。事業を運営する側や講師側が疲弊しては良いものは生まれないと考えており、講座数の見直しも一考の余地があるのではないかと。「みんなの学校」はこれまでの形は廃止することだが、発展的廃止と受け止め、学びの循環に資する改良となることを期待します。</p> <p>・どの講座も楽しそうなものばかりで、全て行けないのが残念です。これまでの形がなくなってしまうことも残念に思いますが、さらに進化することを期待しています。</p> <p>・授業をうけて「はい、終わり」ではなく、残って感想などのおしゃべりをしたい人、先生に質問したい人(みんなの前では恥ずかしいから個別で)が残って話せる「アフタートーク」的な時間が欲しいと思ったことがあります。</p>									

